



淡水真珠発祥の地、草津市

日本初の養殖が草津市で確立されて以来、滋賀・琵琶湖の特産となった淡水真珠。
ここでは草津市における淡水真珠養殖のあゆみや取り組みについて紹介します。

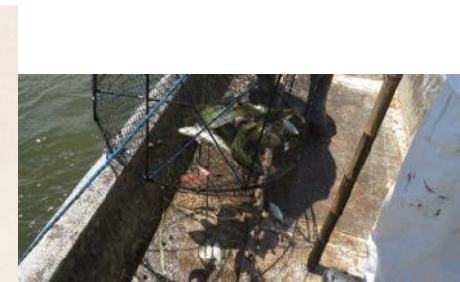
草津市発祥！淡水真珠の養殖と生産

淡水真珠は昭和初期に草津市の志那地区で全国発の養殖が成功して以来、平湖・柳平湖を中心に生産されてきました。最盛期の昭和40年代には滋賀県全体での年間生産量が6tを超える琵琶湖の一大産業で、特に海外で「Biwa Pearl（ビワパール）」として強い人気がありました。

その後、漁場の環境変化や原材料の母貝の高騰・量減少、安価な海外産真珠の台頭等により、生産数は一時激減しましたが、近年、淡水真珠の価値が再認識され、また、漁場環境の改善などにより、回復の兆しをみせています。淡水真珠は生産者によって、養殖オベに使う道具、施術方法、核の形などが異なるため、ひとつとして同じものはなく、現在でも各地域の生産者によって個々の手法が守られています。発祥の地・平湖でも生産が続けられており、現在も伝統が引き継がれています。



毎年生育実験のオベを施してくれた志那町の皆さん



内湖の生態調査は淡水真珠を作る上で欠かせません



生育状況の実験 試し開けの様子



真珠母貝の生育にかかる環境調査の様子

草津市の淡水真珠復興への取組

生産量が減少している淡水真珠生産を復興させようと、草津市でも平成24年度から令和元年度にかけて、志那町の方々と協働し、生育状況の実験を行う等、復興に向けた取り組みを行いました。

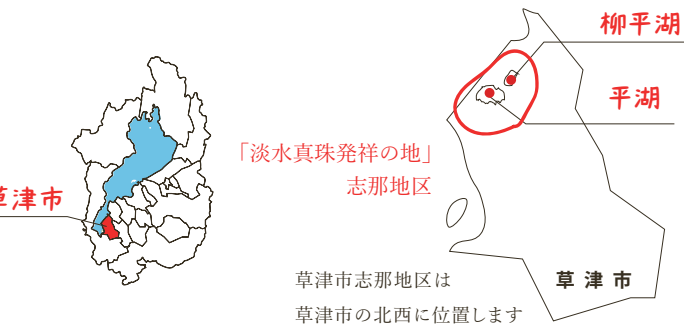
どうして草津市志那町で発祥したの？

実は草津市が発祥なんです！

三重県鳥羽市の御木本幸吉氏の下で技師として活躍されていた藤田昌世氏が志那町に来られ、吉田虎之助氏（志那町）の物心援助などの協力を得て、養殖の環境に適した草津市の内湖「平湖」で研究を始めました。当時の養殖母貝のカラスガイではなく、イケチョウガイが淡水真珠用の母貝として適していることを突き止めたことで、平湖での淡水真珠養殖が始まりました。

平湖・柳平湖ってどんなところ？

平湖・柳平湖は琵琶湖の内湖（琵琶湖と繋がった池や沼、小さな湖などのこと。上流の川から水と一緒に栄養や砂が流れ込む。）の一つ。この2つの内湖は琵琶湖と樋門（ひもん）で繋がっていて、水位調節が出来たことから、適度な水量が保て、貝が育つのに適した環境（水量・栄養・水の流れ）になっていたと考えられています。



志那町における淡水真珠の歴史

発祥

藤田昌世氏がイケチョウガイを利用した淡水真珠の養殖、商品化に成功し、琵琶湖の淡水真珠の生産が開始される。

最盛期

県全体での生産量が年間6tを超え、滋賀県の一大産業として栄える。

存続の危機、低迷

漁場の環境変化により生残率の低下が生じ、生産が停滞する。

一大産業としての復活に向けて

草津市と志那町の協働事業として、柳平湖にてイケチョウガイの生育調査・養殖実験が開始され、環境学習等の取り組みも行われる。

大正14年

藤田昌世氏（開発者・技師）、吉田虎之助氏（物心援助）が草津市志那町の平湖で研究を開始する。



吉田虎之助銅像

昭和5年

昭和20年代

無核真珠の養殖に着手し、新技術の開発に成功したことから、無核真珠が中心となる。

戦後、平湖真珠株式会社が設立され、本格的に養殖業がスタートする。

昭和30年代

真珠養殖事業に着手する町内の個人漁業者が増える。

昭和40年代

志那町真珠養殖組合が出来る。

平湖では手狭となり、柳平湖でも養殖を開始する。

最盛期は、町内の半数以上の家が、この事業に参加していたんだって！

昭和50年代中頃

志那町だけで養殖業者が約50軒となる。

昭和60年代

漁場の環境変化による生育不良に加え、原材料の母貝の高騰・量減少等により養殖業が激減。

志那町の真珠養殖業組合が解散される。

平成24年

環境に適した母貝の品種改良の取り組み



平成24年度から令和元年度にかけて行われた養殖実験と養殖実験で穫れた真珠

現在

平湖での淡水真珠の生産は現在も続けられており、伝統が引き継がれている。



現在の平湖での養殖風景



環境学習の様子

淡水真珠は長い時間をかけて育まれる「琵琶湖の宝石」です。

3～4年もの長い期間をかけて生産者の絶え間ない努力により生み出されるこの宝石はすべてが真珠層。厚い真珠層により気品のある光沢を放つ、世界に一つの「琵琶湖の宝石」です。



世界にたった一つ。

個性的な色と形が特徴

淡水真珠は、白く丸い海の真珠と異なり、ピンクやゴールド・薄紫などの淡い色合いを持つものもあり、形も、薄く平たいものからドロップ型のようなものまで、ひとつひとつ個性的な形をしているのが特徴です。



	海の真珠	淡水真珠
色	白・黒などが主	さまざまな色味（ピンクやゴールド、オレンジ、シルバー、白、黒、薄紫など）
形	綺麗な球体	自然の力による多様な造形（オハジキのような薄く丸い形、涙型、十字型など）
養殖の特徴	有核真珠（丸い真珠を作るため丸い「核」と、真珠層を作る細胞を貝に埋め込む）	無核真珠（核を入れず、真珠層を作る細胞のみを貝に埋め込む）※現在は有核真珠もあります。
母貝	アコヤガイ、シロチョウガイ等	イケチョウガイ（琵琶湖固有種）等
生育期間	母貝に生長…約2年 真珠を作る…約7ヵ月～2年 ＝約3～4年	生育期間が長い 母貝に生長…約3年 真珠を作る…約3～4年 ＝約6～7年
魅力	色や形が統一されていて安定感があるため、シンプルに楽しめ、リッチ感がある。	色や形が全て異なるため、自分だけのアクセサリに出会える喜びがある。

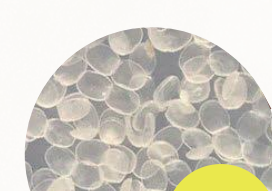
イケチョウガイの生長

淡水真珠の母貝、イケチョウガイの生態と真珠が採れるまでを見てみましょう。

約10日 幼生期

寄生する幼生が多すぎても魚が弱ってしまうので、この時期は水温や魚の状態の管理も大切です。

・離れて沈下し砂の上で生活



0日 ふ化

幼生（グロキデウム）が、ヨシノボリなどの魚のエラなどに寄生

約6ヵ月 二枚貝へ成長



約3年程かけて、10cm以上の大きさに成長します。

約3年 母貝へ生長

1年目の稚貝（右）と3年目の母貝（左）



この時期にすること

・細胞を貝に埋め込む（オベ）作業の後、棚へ設置し内湖へ
・細胞が増え、真珠袋が形成
・真珠袋の中に真珠質が分泌されて、真珠が大きくなる



約6年～ 収穫

1つの貝から8個程の真珠が穫れます。



History and Industry of Kusatsu city

淡水真珠

草津市志那町発祥の琵琶湖の宝石

厚い真珠層で包まれ神秘的な輝きを放つ琵琶湖の宝石、淡水真珠。実は滋賀県草津市の北西部、志那地区にある平湖・柳平湖が発祥です。草津市の人々の生活を支え、今もなお個性的で愛らしい色と形で人々を魅了する世界に一つの宝石についてご紹介します。

SHINA, KUSATSU

協力：志那町
発行：草津市農林水産課
〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目13番30号
TEL:077-561-2347 FAX:077-561-2486
Email:norin@city.kusatsu.lg.jp

R3.1